

平成30年度 乳幼児教育振興特別事業

全幼研ワクワクプロジェクト（愛知支部） 報告書

「新法令と子どもの生活・遊び ～何を目指して、何を見直すか～」

—乳幼児をもつ保護者が安心して子育てできるように—

提出日 平成30年12月28日

支部長名 伊藤 茂美

- 実施日 平成30年12月25日（火）
時 間 10時00分～11時45分
○ 会 場 ウィルあいち ウィルホール
○ 参加者 全幼研愛知支部 個人会員及び団体会員

全幼研東海北陸ブロック個人会員及び団体会員の希望者

及び他団体の会員の希望者 (計581名)

- 講 師 所属・職名 聖心女子大学 教授 名前 河邊 貴子
○ 内 容

☆3法令改訂によって示された方向性

- ・すべての子どもに質の高い保育（教育）を
- ・これからの世界を担う人材の育成 knowing—doing—being
- ・幼保小の教育を貫く共通語 資質・能力・アクティブラーニング

☆生まれてから6年間の発達の特徴と保育者の援助のポイント

0歳児 身体的な成長が著しい時期。それ共に心も成長する。興味・関心が広がる。など

～1歳児 ⇒受け止めてくれる大人の存在。「安心」がキーワード

2歳児 運動能力や筋肉などが発達する。言葉が増え、自己主張をはっきりする。 など
⇒自己発揮を尊重する。他者とのかかわりを調整する。

3歳児 目で見て理解して動くという連合能力が著しく発達。

予想や意図、期待をもって行動できるようになる。 など

⇒簡単に見立てられる、子どもの動作を助ける環境を用意。

4歳児 想像力が豊かになり、目的をもって行動したり、つくったり、かいたり、試したり
するようになるが、葛藤も経験する。 など

⇒共通体験をもとに遊びを展開できる環境づくり。

5歳児 共通のイメージをもって遊んだり、目的に向かって集団で行動したりすることが増
える。 など

⇒子どもが最適解を求めていくことに寄り添い、必要に応じて助言する。

子どもが憧れる魅力的なモデルとなる。

☆ 子どもが安心して遊べる園とは

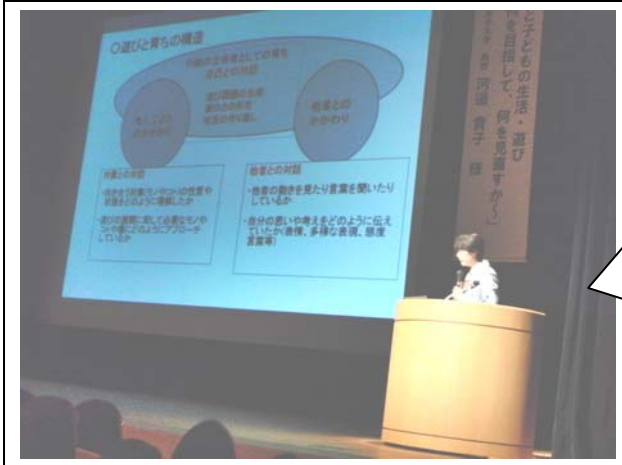
☆ 10の姿のとらえ方

☆ 子ども理解と大人の役割

☆ 子どもの育ちを促す環境の構成

- | | | |
|-------|---------|--------------|
| 一次レベル | （せまる） | 子どもを包む |
| 二次レベル | （ゆさぶる） | 子どもから引き出す |
| 三次レベル | （意味づける） | 子どもの意味づけを助ける |

《研修会の様子》



図や具体的な子どもの姿を、写真を見せながらお話しいただいたので分かりやすく、参加者もうなずきながら、時には笑顔で聞いていた。

参加者はどの内容も聞きもらさないよう、真剣な表情でメモを取りながら聞いていた。



《参加者の感想》

- ・ 遊びが充実していく様子や、子どもの思い、教師の意図・かかわりなどを写真を使って話していただいたので、とても分かりやすかった。
砂場・ままごとなどの遊具も、子どもたちの遊び方や育ちに合ったものを用意しているかをしっかり見極めていかなければならないと反省した。
- ・ 10の姿と5領域の関係や、個と対象との関係など図示していただいたことで、新法令と子どもの姿が一目で結びついた。とても分かりやすい講義だった。

○ まとめ（成果と課題）

- ・ 0歳児～5歳児の発達の過程と共に、各年齢の特徴を捉え発達を促す保育者の援助のあり方について学ぶことができた。学んだことを具体的にどう実践していくか、自分の園の環境の構成や保育者のかかわりを見直していくことが大切である。乳幼児の保護者が園を信頼し、安心して保育者と共に子どもの育ちを支えていけるよう、保育内容・子どもが経験していることをわかりやすく伝えていくことが必要であることをなど参加者がわかり、今後もこのような会を開催する意義を感じた。